

令和4年度 秋の公開

音楽科学習指導案

指導者 学びの改革支援課 教育主幹兼義務教育指導係
係長 臼井 学 先生
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 教授 齊藤 忠彦 先生
日時 令和4年11月18日(金)
授業学級 3年B組(41名)
授業会場 音楽室
題材名 「アカペラによる響きの美しさを味わいながら歌おう」
授業者 志賀 浩介

I 本校全体の研究の概要

- 1 令和4年度 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」・・・・・・・・・・音楽1
- 2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え・・・・・・・・音楽1
- 3 令和4年度 研究の全体構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・音楽2

II 音楽科の研究

- 1 音楽科の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・音楽3
- 2 教科としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め・・・・・・・・音楽3
- 3 研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・音楽3

III 題材の指導計画

- 1 題材名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・音楽4
- 2 題材の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・音楽4
- 3 題材の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・音楽4
- 4 音楽科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・音楽4
- 5 題材に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・音楽5
- 6 題材展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・音楽6
- 7 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・音楽8

信州大学教育学部附属長野中学校 音楽科

研究者 志賀 浩介

I 本校全体の研究の概要

1 令和4年度「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」

目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方（2年次）

2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え

学校教育目標「ともに学び 一人となる」の下、日々の教育活動に努める私たちは、令和2年度末、それまでの教育活動において「育っている生徒の姿」と「さらに育てたい生徒の姿」を洗い出し、令和3年度において、本校の「目指す生徒の姿」について検討した。以下はそこで出された意見の一部である。

- ・学ぶことがおもしろい、楽しい、もっと学びたいと願う生徒
- ・解決したことを基に、新たな問いをもつ生徒
- ・学習や人生において、各教科等の「見方・考え方」を、自在に働かせていく生徒
- ・自分の学びを客観的に捉えたり、友の考えを批判的に捉えたりするなど、学びを自覚することができる生徒

なお、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の第1章総説1の(2)③では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進において、次のような生徒の姿が求められている。

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする

私たちは、令和3年度において、「目指す生徒の姿」を検討した際に出された上記の姿と、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編において求められている生徒の姿が重なると考えた。そこで私たちは、目指す生徒の姿の具体を「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と捉え、本校が目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」と据えた。

次に、私たちは、「学びを拓いていく生徒」を具現するために令和2年度までの研究を基にして、全校研究テーマについて検討した。そこでは、各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことを「各教科等の本質」、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉えることを職員間で共有した。そして、この二つの本質は、「学びを拓いていく生徒」の具体とした「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」を迫るものであること、「各教科等の本質」を目指す中で「学びの本質」が生まれることの2点を確認した。そこで、私たちは、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、その具現を図ることとした。

3 令和4年度 研究の全体構想

(1) 目指す生徒の姿

| |
|------------|
| 学びを拓いていく生徒 |
|------------|

(2) 全校研究テーマ

| |
|----------------|
| 学びの本質に迫る学習の在り方 |
|----------------|

(3) 研究の重点

| |
|--|
| <p>重点1 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする 単元や題材の学習問題の解決（達成）を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付ける（単元や題材）。思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付ける（本時）。</p> <p>重点2 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする ①「分かったことや分からなかったこと」「疑問に思うこと」「さらに生かせそうなこと」など、振り返りの視点を基に、単元や題材を振り返る場を位置付ける。 ②単元や題材の初めの姿と終末の姿を比較し、分かったことやできるようになったことと、その理由（学習過程）を振り返る場を位置付ける。 ③単元や題材を通して、学習したことを生かすことができるような課題に取り組んだり、課題に取り組んだ後に、単元や題材で学んだことを振り返ったりする場を位置付ける。</p> |
|--|

(4) 各教科等で育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

| 各教科等 | 各教科等で育成を目指す資質・能力 | 各教科等の研究テーマ |
|-----------|--|---|
| 国語 | 国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力 | 文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方 |
| 社会 | 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎 | 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方 |
| 数学 | 数学的に考える資質・能力 | 数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方 |
| 理科 | 自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力 | 観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方 |
| 音楽 | 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力 | 音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方 |
| 美術 | 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力 | 主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方 |
| 保健体育 | 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力 | 運動や健康についての課題を合理的に解決する力を高める学習の在り方 |
| 技術・家庭 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力 | (技術分野)社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方 (家庭分野)生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方 |
| 英語 | 簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力 | 事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方 |
| 道徳 | よりよく生きるための基盤となる道徳性 | 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳性を育むための学習の在り方 |
| 総合的な学習の時間 | よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力 | 自ら課題を設定する力を高める学習の在り方 |
| 特別活動 | 様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力 | 学校生活をよりよくするための課題を解決する力を高める学習の在り方 |

II 音楽科の研究

1 音楽科の研究テーマ

音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方

2 教科としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め

「情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌おう」（令和4年4月・3年）では、「花」（武島羽衣作詞、滝廉太郎作曲）にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う学習を構想した。そこでは、「花」の舞台である春の隅田川の写真資料を見て感じ取ったことや歌詞から思い浮かべた情景を基に、強弱や速度に着目して思いや意図をもちながら歌い試す活動を位置付けた。

S生は、写真資料を基に歌詞から、隅田川に咲く花々の春の美しい景色を思い浮かべた。S生は、3番の歌詞にある「おぼろ月」に焦点を当て、おぼろ月のぼやけた曖昧な美しさを表すために、強弱に着目してp（ピアノ）で表現したいと考えた。さらに、全体共有の場面において、S生は、「『おぼろ月』の部分をゆっくり歌うと、より『おぼろ月』のぼやけた感じを表現することができるのではないか。」という友の発言を聞き、速度にも着目して歌い試した。その中で、「『おぼろ月』のぼやけた曖昧な美しさを表すためのpの表現は、温かい息を弱くゆっくりと送るイメージで歌うとよさそうだ。」など、これまで身に付けた発声の仕方を生かすことで、思いや意図を更新し、表現を深めていった。このようなS生の姿は、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、「花」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うことができた姿であり、音楽表現を創意工夫する力を高めた姿と捉える。

題材の終末、導入時に抱いた「花」への印象が、本題材の学習を経てどのように変化したかを考える活動を位置付けた。S生は、「初めに聴いた時は、リズムが軽やかではあるが古い曲という印象だった。しかし、言葉一つ一つの発音の仕方や強弱と速度の加減を調節し、歌詞や写真から抱いたイメージを自分で表現してみることで、味わい深い曲だと感じられるようになった。」と述べた。このようなS生の姿は、音楽を形づくっている要素が、曲想や歌詞の内容と密接に結び付いていることを実感し、楽曲のよさに気付いた姿であり、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿と捉える。

このような学習を積み重ねていくことで、音楽科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

3 研究内容

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編第2章第1節の1(2)には、音楽科の目標の一つである、思考力、判断力、表現力等の表現領域に関わって、次のように示されている。

音楽表現を創意工夫するとは、音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて思いや意図をもつことである。

本年度、音楽科では、音楽表現の中でも歌唱表現に焦点を当て、年間35時間という限られた時間数の中で、生徒が、知識や技能を得たり生かしたりしながら、創意工夫する力が高められるようにしていきたいと考えた。そこで、音楽によって喚起されるイメージや感情を、音楽を形づくっている要素と関わらせて、思いや意図をもちながら、歌い試す中で、思いや意図を表現するための技能（発声、言葉の発音、身体の使い方、他者と合わせるなど）を高めつつ、思いや意図をさらに深めたり、新たな思いや意図をもったりできるようにするなど、歌唱表現を創意工夫する力を高める学習過程の在り方を研究していくこととした。

Ⅲ 題材の指導計画

1 題材名・学年 「アカペラによる響きの美しさを味わいながら歌おう」・3年

2 題材の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能【A(1)イ(ア)ウ(イ)】

「Amazing Grace」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等【A(1)ア】

旋律、テクスチャ、強弱、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「Amazing Grace」にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

「Amazing Grace」の声が響き合う美しさや、音の重なり、歌詞の内容や曲の背景に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとする。

3 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|--|
| <p>知 「Amazing Grace」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。</p> | <p>思 音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「Amazing Grace」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p> | <p>態 「Amazing Grace」の声が響き合う美しさや、音の重なり、歌詞の内容や曲の背景に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

4 音楽科として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 研究の重点1に関わる仮説

- ・「Amazing Grace」を聴いて感じ取ったことや曲の背景との関わりについて考えたことと、音色、旋律、テクスチャ、強弱などによって喚起されるイメージとを関連付けて、思いや意図をもちながら歌い試す展開を位置付ける。このようにすることで、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、「Amazing Grace」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うことができる。(題材)
- ・「Amazing Grace」から抱いたイメージに合うように、副旋律の動きを生かした歌唱表現を考え、友と歌い試す活動を位置付ける。このようにすることで、思いや意図を表現するための歌唱方法を見いだしたり、思いや意図を深めたりすることができる。

(本時)

(2) 研究の重点2に関わる仮説

- ・題材の終末、導入時に抱いた「Amazing Grace」の印象が、本題材の学習を経て、どのように変化したかについて考えをまとめる活動を位置付ける。このようにすることで、アカペラによる合唱そのものの価値とともに、曲を形づくっている要素(主にテクスチャ)やハーモニーのバランスなど、本題材を通して得た知識及び技能の価値を認識することができる。

5 題材に寄せた教材化

(1) 「Amazing Grace」を聴いて感じ取ったことや曲の背景との関わりについて考えたことと、音色、旋律、テクスチュア、強弱などによって喚起されるイメージとを関連付けて、思いや意図をもちながら歌い試す展開を位置付ける

本題材では、「Amazing Grace」（三宅悠太編曲）を扱う（音楽8ページ）。生徒は、8小節目からの各声部の役割や音の重なりに気付きやすく、音楽を形づくっている要素の中でも、主にテクスチュアに着目し、音楽を知覚・感受していこう。

第1～2時、教師は、独唱版とアカペラ合唱版を聴き比べる場を設け、感じ取ったことを全体で共有したり、曲の背景を説明したりする。そして、英語の歌詞の意味を確認して音読し、再度聴く。その後、捉えた音楽の特徴として、音色、旋律、テクスチュア、強弱を確認し、知覚・感受したことを基に、どのように歌いたいか、思いや意図をワークシートに書くように促す。そして、生徒の考えを全体で共有した後、グループや全体の練習で音程を確認し、思いや意図をワークシートに書き加えるように促す。

第3時（本時）、教師は、前時を振り返り、音の重なりや副旋律の動きについて確認する。そして、前時の気付きと表現したいイメージを関わらせて思いや意図をもっている生徒の考えを全体に紹介する。追求する箇所を後半に絞り、友の考えを踏まえながら表現を深めていくことを確認し、学習課題「『Amazing Grace』から抱いたイメージに合うように、副旋律の動きを生かした歌唱表現を考え、友と歌い試そう。」を据える。その後、どのような工夫が考えられるか、数名の生徒に発表を促し、全体で共有する場を設ける。生徒は、「静かに消えていくようなイメージで『I see～』の副旋律を際立たせて歌いたい。」（図1）などと考えるだろう。教師は、生徒が思いや意図を歌唱で表せるように、部分ごとに区切り、挙げられた表現の工夫をペアや全体で歌い試す場を設ける。生徒は、友の考えを聞いたり、歌い試したりする中で、

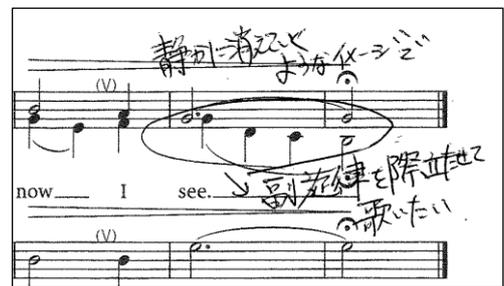


図1 生徒のワークシートの一部（例）

「Amazing Grace」にふさわしい表現となるように、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌っていかうとするだろう。その中で、生徒は、様々な表現を試しながら「『I see～』の副旋律はゆっくりためながら、デクレッシェンドして歌うことで、救われた思いを静かに噛みしめるような表現ができそうだ。」などと、思いや意図を深めていこう。

このようにすることで、生徒は「音楽的な見方・考え方」を働かせ、「Amazing Grace」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うことができるだろう。

(2) 題材の終末、導入時に抱いた「Amazing Grace」の印象が、本題材の学習を経て、どのように変化したかについて考えをまとめる活動を位置付ける

第3時（本時）の終末、上記の活動を位置付ける。生徒は、「Amazing Grace」の歌詞の意味や曲の背景を知り、自分も抱いたイメージと関わらせて考えることで、「最初に聴いた時は、アカペラの合唱は何となく荘厳な雰囲気があると感じていたが、授業の中で副旋律の動きや、他のパートとの音の重なりや音量のバランスを意識し、しっかりと聴き合いながら歌うことで、合唱の響きが充実し、曲のもつ荘厳な雰囲気や作詞者の思いなどに近付いていくことが実感でき、より魅力的な音楽だと感じられるようになった。」などと、考えをまとめるだろう。

このようにすることで、アカペラによる合唱そのものの価値とともに、曲を形づくっている要素（主にテクスチュア）やハーモニーのバランスなど、本題材を通して得た知識及び技能の価値を認識することができるだろう。

6 題材展開 「Amazing Grace」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う学習

全3時間扱い 本時は第3時

| 段階 | ◆学習 | | ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」 | | 評価の観点 | 時間 |
|----|---|--|----------------------------|--|--|----|
| | 教師の指導・支援 | | 予想される生徒の反応 | | | |
| 導入 | <p>◆「Amazing Grace」の声が響き合う美しさや、音の重なり、歌詞の内容や曲の背景に関心をもち、「Amazing Grace」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感するとともに、知覚したことと感受したことの関わりについて考える。</p> | | | | <p>●[知] (観察・ワークシート) ●[思] (ワークシート) ●[態] (観察・ワークシート)</p> | 1 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 「Amazing Grace」の独唱版とアカペラ版を聴き比べ、感じ取ったことを全体で共有したり、曲の背景について説明したりする。 ア、イのような反応から題材の学習問題「アカペラの響きを味わい、『Amazing Grace』にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌おう。」を設定する。 ウのような考えから、楽譜を見ながら再度音源を聴き、気付いたことを共有する場を設ける。 各パートに分かれて音とりをし、全体で合わせる。 どのように歌いたいかについて、思いや意図などの自分の考えを記述する場を設ける。 | <p>ア 独唱版も願いのようなものが伝わってくる感じがしたが、アカペラ版の方が、音の厚みが増すことでより神聖な雰囲気を感じた。英語の歌詞の意味と曲の背景について知ると、この曲の祈るような曲の雰囲気がより感じられるような気がした。</p> <p>イ 透き通るような女声とそれを支える男声が重なり、アカペラの美しいハーモニーを作っていた。</p> <p>ウ いくつかのパートに分かれ、様々な旋律が重なり合って響いていた。それぞれの旋律がどのような動きをしているのかを確認するために、もう一度聞いてみたい。</p> <p>エ 最初は全てのパートが同じ旋律を歌っているが、「like me～」の部分からパートが分かれ、3部合唱になる。</p> <p>オ アルトや男声に主旋律以外の動きが出てきている。</p> <p>カ 旋律がゆったりしていたので、思っていた以上に歌いやすいが、考えたことをもっと表現できるようになりたい。</p> <p>キ 『like me～』の部分かのクレッシェンドを意識し、「I once～」の部分で盛り上げることで、喜びの感情が次第に増していき、「I once～」の部分で喜びの感情が溢れる感じを表したい。</p> | | | | |
| 展開 | <p>◆「Amazing Grace」主に旋律とテクスチュアに着目して曲想と音楽の構造の関わりを理解し、他パートとのバランスを聴き合って歌いながら、歌唱表現の思いや意図を深める。</p> | | | | <p>○[知] (ワークシート) ●[思] (ワークシート) ●[態] (観察・ワークシート)</p> | 2 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 前時を振り返り、クやケのようにテクスチュアに着目している記述を取り上げ、学習課題「音の重なりや副旋律の動きを理解し、互いのパートをよく聴き合って歌おう。」を据える。 副旋律がどの部分に表れるかを確認し、それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を受感できるようにする。 演奏の録音を聴き、音の重なりや旋律の動きを生かすために意識することを出し合い、全員で共有する。その後、挙げられた箇所についてペアやグループで練習するように促す。 全体で合唱をし、本時の学び振り返る場を設定する。 どのように表現したかについて、ワークシートに思いや意図を記述するように促す。 | <p>ク 『like me～』の部分はアルトが主旋律ではないが旋律のような動きをしており、その動きによって喜びの感情が広がっていくように感じた。</p> <p>ケ 最初は斉唱だが、7小節目から合唱になる。斉唱の部分は静かに祈るようなイメージで、合唱の部分は思いが広がっていくようなイメージをもった。</p> <p>コ 「I see」の副旋律は祈りが天に消えていくようなイメージをもった。また、「I once～」の部分は、男声からアルトへ4分音符の動きが繋がっていくことによって前に進んでいくエネルギーのようなものを感じた。</p> <p>サ 斉唱部分は、ユニゾンで強く聞こえがちになるので、互いの音をより繊細に聴き合って歌いたい。また、合唱の部分からは各パートに分かれて逆に弱くなってしまっているので、広がりを感じて歌いたい。</p> <p>シ 「now I'm found」の部分はアルトから男声に副旋律が移っていくので、互いのパートをよく聴き、一つの旋律に聞こえるようにつなげて歌うことで、曲が進む感じを出していきたい。</p> <p>ス 各パートのバランスを意識することで、自分が表したい荘厳な雰囲気に近づいてきた。副旋律の動きを他のパートが聴いたり、副旋律の歌い方を考えたりすることで、消えそうな感じや気持ちが高まっていく感じを表現できそうだと感じた。</p> <p>セ 「I once～」の部分はただ大きく歌うのではなく、男声と女声のバランスを意識し、息を吸うタイミングもそろえて歌うことで、喜びの感情が徐々に高まっていき、湧き上がるような表現ができると思った。</p> | | | | |

| | | | |
|---|--|--|-----|
| 終末 | <p>本時のねらい: 思いや意図を表現するための歌唱方法を見いだしたり、思いや意図を深めたりする。</p> | | |
| | <p>・「Amazing Grace」を合唱で通して歌った後、前時の振り返りを発表するように促す。ソのような生徒の振り返りを全体に紹介し、学習課題「『Amazing grace』から抱いたイメージに合うように、副旋律の動きを生かした歌唱表現を考え、友と歌い試そう。」を据える。</p> | <p>ソ 副旋律が聴こえるように、よく聴き、自分のパートの役割を考えて歌うことで、思いや意図を表現できそうだ。最も盛り上げたい箇所では、どの程度の音量で歌えばよいか分からなかったが、同じパートや別のパートの友からの助言があると、分かりやすいのではないかと思う。</p> <p>タ 「I see～」の副旋律を際立たせるようなバランスや、副旋律の歌い方について、息のため具合や強弱の仕方などを歌い試しながら考えを深めていきたい。</p> <p>チ 「I once～」からの部分を広がりのある感じで歌うためには、強弱を意識するだけでなく、息を吸うタイミングを他のパートと合わせることも意識していきたい。</p> | 10分 |
| | <p>・「Amazing Grace」にふさわしい表現をするためにどのような工夫が考えられるか複数名に発表を促し、拡大楽譜にまとめていく。</p> | <p>ツ 静かに消えていくようなイメージで「I see～」の副旋律を際立たせて歌いたい。</p> <p>テ Aさんは「I see～」からのアルトの副旋律の動きとデクレッシェンドを生かし、静かに消えていくような表現ができるように、その前の「but now～」からのデクレッシェンドを調節して歌いたいと言っていた。</p> <p>ト Bさんは「I see～」の部分の副旋律について、デクレッシェンドするだけでなく、ゆっくりためることで聴いた時の印象が変わってきそうだと言っていた。</p> <p>ナ 「I see～」の副旋律はゆっくりためながら、デクレッシェンドして歌うことで、救われた思いを静かに囁みしめるような表現ができそうだ。</p> | 15分 |
| | <p>・部分ごとに区切り、挙げられた表現の工夫をペアや全体で歌い試す場を設ける。</p> | <p>ニ ペアで歌い試す中で「I see～」からのアルトの副旋律を生かして歌うためのバランスの取り方が分かってきた。しっかりとアルトを聴き、やさしい息遣いで歌うとよさそうだ。</p> | 10分 |
| | <p>・必要に応じて、身体の使い方、発音の仕方、呼吸法などを助言する。</p> | <p>ヌ 男子は「I once～」の部分の音が高く、音が固く詰まった感じの声になってしまい、他のパートとのバランスが悪くなってしまう。他のパートと上手く調和し、視界が開けるイメージでなめらかに歌うためにはどのようなことに気を付ければよいのだろうか。</p> | |
| | <p>・全体で「Amazing Grace」を合唱し、本時の学びを振り返る場を設ける。</p> | <p>ネ 他のパートがどのような動きをしているのかを理解し、聴き合いながら歌うことでハーモニーのバランスを調節したり、旋律の動きを際立たせたりすることができた。最初に漠然と感じた曲のよさや雰囲気やそういった曲の構造を意識することで表せると分かった。</p> | 15分 |
| <p>・導入時に抱いた「Amazing Grace」の印象が、本題材の学習を経て、どのように変化したかを考える場を設ける。</p> | <p>ノ 最初に聴いた時は、アカペラの合唱は何となく荘厳な雰囲気があると感じていたが、学習を進めていく中で副旋律の動きや、他のパートとの音の重なりや音量のバランスを意識し、しっかりと聴き合いながら歌うことで、合唱の響きが充実し、曲のもつ荘厳な雰囲気や作詞者の思いなどに近付いていくことが実感でき、より魅力的な音楽だと感じられるようになった。</p> <p>ハ 今まで自分のパートを歌うことに意識が向いていたが、アカペラの合唱に取り組んだことで、他パートの動きをより意識し、聴き合いながら歌うことが、曲想や背景を生かした合唱の表現につながると実感した。これからクラス、学年や全校で合唱する時にも、他のパートの副旋律の動きを意識して表現を追求していきたい。</p> | | |

○思 (ワークシート) ○技 (演奏(歌唱)) ○態 (観察・ワークシート)

3 (本時)

7 資料

(1) 「Amazing Grace」の楽譜

Amazing Grace

J. ニュートン 作詞 / アメリカの古い旋律 / 三宅悠太 編曲

● 音の重なりに気を付けて、互いのパートをよく聴き合いながら、曲にふさわしい表現を工夫して歌いましょう。

♩ = 69ぐらい

A - maz - ing - grace, how - sweet the sound, That - saved a -
wretch like - me! I - once - was - lost, - but -
now - I'm found, - Was - blind, - but - now - I see.

poco (ポ-コ)…少し

《訳詞》

アメイジンググレース そのすばらしい響き
それは私のような者までも 救ってくれる
ずっと見失っていたけれど
今大切なものが見つかった
見えなかった目は 今見えるようになった

《曲の背景》

作詞をしたイギリス人のジョンニュートン (1725~1807) は、奴隷貿易を行う船の船長をしていたが、その後牧師になった。この歌詞は牧師になってからつくられたもので、奴隷貿易に関わったことに対する後悔の念や神への感謝の気持ちがかめられているといわれる。

(2) 歌唱表現における各学年での目指す姿と知識及び技能の高まりに関する音楽科の捉え

| 3 学年【混声 4 部合唱の曲想を感じ取り、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫できる】 | | |
|--|---|---|
| [クラス合唱] 曲想の変化と曲の背景などを関わらせて、表現の追求ができる曲 ↑ [教科書等の教材] 「Amazing Grace」 「大地讃頌」 「花」 | ・曲想の変化と曲の背景などを関わらせ、強弱・音色・速度・テクスチュアに着目し、曲にふさわしい表現を考える活動を位置付ける。 | ≪合わせる技能≫ ・声部の役割に応じて、声量等を調節する技能【Amazing Grace (2)】 ・他パートや全体の響きを聴きながら合わせて歌う技能【Amazing Grace (2)】 ≪発声≫ ・ソプラノ、アルト：発声の安定と豊かな表現力【大地讃頌】 ・テナー、バス：自分の音域の理解と音域の広がり【大地讃頌】 ≪基本となる技能≫ ・《発音》言葉に応じて適宜子音を立てる技能【花 (3)】 ・《呼吸法》腹式呼吸によるブレスコントロール【全題材】 |

| 2 学年【混声 3 部合唱の曲想の変化を感じ取り、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫できる】 | | |
|---|---|--|
| [クラス合唱] 場面的変化を感じられる曲 ↑ [教科書等の教材] 「翼をください」 「夏の思い出」 「夢の世界を」 | ・場面ごとの曲想の変化を感じ取り、強弱・音色、速度、テクスチュアに着目し、曲にふさわしい表現を考える活動を位置付ける。 | ≪合わせる技能≫ ・声部の役割に応じて、声量等を調節する技能【翼をください (2)】 ・他パートや全体の響きを聴きながら合わせて歌う技能【翼をください (2)】 ≪発声≫ ・ソプラノ、アルト：自分の音域の理解と音域の広がり【夢の世界を (2)】 ・テナー、バス：変声後の安定した響きの獲得【夢の世界を (2)】 ≪基本となる技能≫ ・《発音》言葉に応じて適宜子音を立てる技能【夏の思い出 (2) 他】 ・《呼吸法》腹式呼吸によるブレスコントロール【全題材】 |

| 1 学年【平易な混声 3 部合唱の曲想を感じ取り、歌唱表現を創意工夫できる】 | | |
|---|--|---|
| [クラス合唱] 有節形式の曲 ↑ [教科書等の教材] 「朝の風に」 「浜辺の歌」 「その先へ」 「We'll find the way」 | ・サビの部分での盛り上がりやそこに至る場面ごとの歌い分けを軸に強弱や音色、簡単なテクスチュアに着目して表現を考える活動を位置付ける。 | ≪合わせる技能≫ ・他パートを聴き合わせて歌う技能【朝の風 (2)】 ≪発声≫ ・ソプラノ、アルト：頭声発声による高音の歌い方【その先へ (2)】 ・テナー：変声後のテナーの声の出し方【朝の風 (1)】 ≪基本となる技能≫ ・《発音》言葉に応じて適宜子音を立てる技能【その先へ、浜辺の歌他】 ・《呼吸法》腹式呼吸によるブレスコントロール【We'll find the way 他】 |

※上記の表は以下のような構成となっている

| 歌唱表現における各学年での目指す姿 | | |
|-------------------|--------|-----------------------------|
| 用いる教材 | 主な学習活動 | 育成したい技能 【歌唱教材における指導場面 (時数)】 |